



三潯保育園 園だより

October 2023



クラス目標 ～1か月大切にしたいこと～



たんぽぽ組

- ・保育者とのふれあい遊びや戸外で探索活動を楽しむ。
- ・保育者や友達と関わりを持ち、やりとりの中で充実感を感じる。

もも組

- ・戸外遊びや散歩を通して、秋の自然に触れて親しむ。
- ・運動会の練習や遊びの中で、のびのびと身体を動かすことの楽しさを味わう。

ばら組

- ・友達や保育者の関わりの中で、思いやりのある言葉が増えてくる。
- ・戸外活動を通し、秋ならではの自然に触れる。

うめ組

- ・運動会の練習の中で、様々な運動遊びに興味を深め、のびのびと身体を動かすことの楽しさを味わう。
- ・身の回りにある文字や数に関心を持ち、遊びの中で親しみを深める。

すみれ組

- ・目標に向かって友達と協力して取り組み、達成感を味わう。
- ・運動会の練習や遊びの中で出来たことを認めてもらい、自信につなげる。

ゆり組

- ・友達と一緒にイメージを膨らませ、力を合わせて作ったり表現したりする。
- ・友達や保育者と意見を出し合いながら、ルールのある遊びを進めていく楽しさを味わう。



《10月の行事》

10日(火)～13日(金)

アウトドアウィーク

17日(火) 避難訓練

24日(火) 小運動会

お弁当の日

27日(金) テント立て

28日(土) 運動会

雨天：29日(日)

30日(月) お誕生会

《大募集》

テント立てのお手伝いをしていただける方を募集しています。お手伝い可能な方は、「我こそは!」と手をあげていただけたら大変ありがたいです。

日程：10月27日(金)

時間：16:30～

作業内容：テント運搬&立て

おじいちゃん・おばあちゃん・おとうさん・おかあさん誰でも大歓迎です!

名頭園 弥生

園外保育ウィーク

11日(水) たんぽぽ組：ハヤニシ公園	12日(木) すみれ組：御船山恐竜公園(熊本県)
11日(水) ばら組：鳥類センター	12日(木) ゆり組：坪井川緑地公園(熊本県)
12日(木) うめ組：三潯消防署	13日(金) もも組：ハヤニシ公園
吉野ヶ里歴史公園	

(雨天時：木下スポーツクラブ)

※お弁当持参：ばら組～ゆり組

たんぼぼ組『初めてをいっぱい体験しよう』

～『お米』との触れ合い～

(8月・9月の活動記録) たんぼぼ組スタッフ

そんな中、一人の女の子がとても真剣な表情。彼女は、職員が最初に準備する姿を真似ていたのです。ジップロックの中に入ったお米を容器に移し替えて、子ども達が遊ぶ準備をしていた、それを真似していたのです。これも立派なごっこ遊び。彼女はあきらめずに何度もチャレンジし、私達はその姿を見守っていました。ようやくうまくお米を移し替えることが出来た時には、ジップロック内の米は少なくなっていました。その瞬間「入った！」と満面の笑みがこぼれ、達成感を味わっている様子でした。



「お米」という一つの環境でも感じ方はそれぞれに違い、夢中になって遊び込む子ども達の姿に驚きました。「0歳児だから難しい」ではなく、「0歳児だからこそ感じる世界がある」と改めて気づくことができました。また、応答的にかかわる大人がそばにいて安心感につながるのではないかと感じることができました。



●2回目：8月24日【ひんやりしたお米】
冷やした生米を水遊び用の桶に入れました。一度お米遊びを経験しているので、子ども達は「お米」＝「遊ぶもの」と捉え、怖がることなく触れていましたが、触ってみるとハッとした表情。お米がひんやりしていたので、冷たい感触にびっくりしたようです。その感触が心地よく、何度も頬にあてたり足にかけたり、桶の中にプールのように入り全身でひんやり気分を感じていました。また、お米を握るとギュッとする感触に気付いた子もいたようでした。

力を込めて握るとお米が手の中に集まる感じが楽しく何度も繰り返し遊んでいました。同じ生米でも「冷やす」という少しの変化を子ども達は敏感に感じ取り、様々な気づき・発見から自分なりの遊びを発展させていく姿を見ることができました。

●3回目：9月18日【お米×水】

桶にお米と水を用意しました。初めのうちは水遊びのように水をパシャパシャさせて楽しんでいましたが、しばらくすると水が白くなったことに気が始めました。何度もかき混ぜ、さらに白くなる様子を観察し、手ですくってみるとしっとりした感触や手の平から粒が取れず不思議そうにしている様子が印象的でした。また、水分を含んだお米がミルク缶に「ポトツ」と鈍い音を鳴らし落ちることに気付くと、もう一度同じ音を再現しようとする子、水分を含み柔らかくなったお米をごはんと思い、スプーンで上手に口に運ぼうとしている子もいました。もしかしたら、本当のご飯と思ったのかもかもしれません。

【お米×水】の組み合わせでまた更に新たな発見をし、自分なりに「面白い」を感じている子が沢山いることに気付きました。

●最後に…

お米との触れ合いで、0歳児の子ども達が五感を通し沢山の事を経験し、多くのことを学び、吸収していることに改めて気付きました。大人が持つ固定概念を取っ払って、日常にある身近なものを子どもの目線だったらどんな遊びへと変化を遂げるだろうかと考えながら、これからもより多くの「初めて」を経験できる環境を整えていきたいと思います。

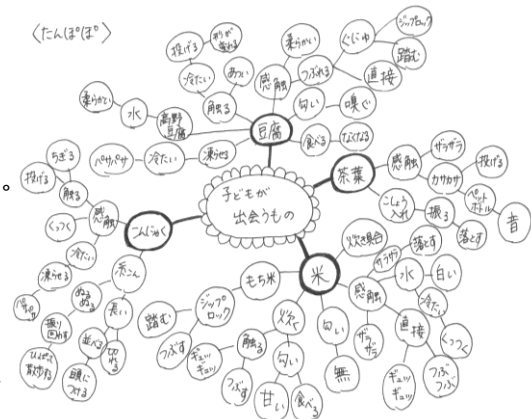


名頭園 弥生

たんぼぼ組の年間テーマは、「初めてをいっぱい体験しよう」。0歳児の子ども達にとっては生まれてから出会うものすべてが「初めて」。見る・聞く・触る・嗅ぐ・味わうという様々な感覚を通して「これなんだろう？」と不思議との出会いを経験していきます。7月末、スタッフは話し合いをしました。

●玩具以外で子ども達が夢中になれそうな「初めて」は何だろうか。

「お米」「豆腐」「こんにやく」「茶葉」
→子ども達がどんな反応するか
ウェブ【右写真】上にまとめていきました。
触る・嗅ぐ・つぶす・投げる・食べる
色んな反応が出そうだねと予想しました。



●【お米】をテーマにすることに！

「お米」は子ども達にとって身近なもの。現在、手づかみで口に運んだり味わったりしている時期で興味や関心をより引き出せるのではないかと。(岩部)
「お米」は今身近にあるもの、そして、これから先もずっと身近にあるもの。(中路)
水に浸したり炊いたり色々な形の変化を楽しめて面白い。(蔵森)
毎日出会う「お米」と違った形で触れ合うことで、「お米」＝「ごはん」に親しみ、「好き」と感じてほしい。(只隈・田島)

色々話し合う中で、炊く前の「お米」の触れ合いから始めることになりました。感触を楽しんだり、音に耳を傾けたりするのではないかと。また、口に入れ、食べたりし味を感じたりするのではないかと。もしかしたら「お米」＝「ごはん」と気づかず、触るのを嫌がる子もいるかもしれないなど沢山のことをイメージし、子ども達が感じることに、発見を子どもの目線に立って進められたらいいと考え、スタートしました。

●1回目：8月2日【初めてのお米】

スタッフが活動の準備をしていると、子ども達はじーっと観察していました。
生米・ままごとのお皿・空いたミルク缶。
普段のおもちゃではないものが色々揃えられていたからかもしれません。



「どうぞ」というタイミングで子ども達は恐る恐る近づき、ほんのちょっと指先で触り始めました。徐々に慣れると、触った感触を堪能していました。不思議そうに眺めたり、米粒が手のひらにくっついて離れず驚いて泣いてしまったり。
お米を容器に繰り返し移す姿や、握ったお米を投げる姿、自分の足にかけて感触を楽しむ姿もありました。空きミルク缶にお米を入れたときの「コン！」という高い音にびっくりした子は、繰り返し実験。ゆっくり落としたり早く落としたりしながら音の違いなどを発見していました。私達は「音が鳴ったね」と応答的に関わり、その繰り返す姿を見守りました。